

### Ⅲ シラバス

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
学びの理解	講義	1	前	1		○久保 ちづる、稲葉 佳江、飯田 直弘	39
論理的思考	講義	1	前	2		崔 昌鳳	41
情報処理	演習	1	前	1		末光 厚夫	43
統計分析法	演習	1	後	1		末光 厚夫	45
情報リテラシー	演習	1	後		1	末光 厚夫	47
生物学A・B	講義	1	前		1	津久井 隆行、松川 典子	49
基礎化学	講義	1	前	2		津久井 隆行	51
英語Ⅰ(基礎)A	演習	1	前	1		松尾 文子	53
英語Ⅰ(基礎)B	演習	1	前	1		大西 三佳子	55
英語Ⅱ(会話)	演習	1	後	1		Kevin Scott Litton	57
						David Flenner	57
表現技法Ⅰ(読解・分析)A	演習	1	前	1		高木 維	59
表現技法Ⅰ(読解・分析)B	演習	1	前	1		安永 立子	61
表現技法Ⅱ(討議・発表)A	演習	1	後	1		高木 維	63
表現技法Ⅱ(討議・発表)B	演習	1	後	1		安永 立子	65
心理学	講義	1	前	2		小島 康次	67
倫理学	講義	1	前	1		村上 友一	69
生態学	講義	1	前		1	立澤 史郎	70
スポーツ科学と運動	演習	1	後		1	岡野 なお子	72
スポーツ理論	講義	1	後		1	平間 康允	74
地域社会文化論	講義	1	後		2	澤井 玄	76
法と人権	講義	1	後		2	神元 隆賢	78
生涯発達論	講義	1	前		1	小島 康次	80
人間関係論	講義	1	前	1		吉野 淳一	81
形態機能学Ⅰ	講義	1	前	2		斉藤 昌之	82
形態機能学Ⅱ	講義	1	後	2		斉藤 昌之	84
有機化学	講義	1	前		2	津久井 隆行	86
微生物学	講義	1	後	2		高島 郁夫	88
微生物学実験	実験	1	後	1		高島 郁夫	90
生化学Ⅰ	講義	1	後	2		○森山 隆則	92
食品科学Ⅰ	講義	1	前	2		荒川 義人	94
食品科学Ⅱ	講義	1	後	2		荒川 義人	96
食品科学実験Ⅰ	実験	1	後	1		荒川 義人	98
調理学	講義	1	前	2		坂本 恵	100
調理学実習Ⅰ	実習	1	前	1		坂本 恵	102
調理学実習Ⅱ	実習	1	後	1		坂本 恵	104
管理栄養士論	講義	1	前	1		○高橋 正子、○久保 ちづる	106
基礎栄養学	講義	1	後	2		松川 典子	108
給食経営管理論Ⅰ	講義	1	後	2		○高橋 正子	110
英語Ⅲ(読解)	演習	2	前		1	松尾 文子	113
社会貢献と活動	演習	2	前		1	神内 秀之介	115
生活環境論	講義	2	前		2	江本 匡	117
現代社会論	講義	2	前	2		清水 香基	119
教育学	講義	2	後		1	所 伸一	121
生命倫理	講義	2	前		1	森口 眞衣	122
医療概論	講義	2	前		2	○千葉 仁志	124
健康管理概論	講義	2	後	2		小林 清一	126
公衆衛生学	講義	2	前	2		高島 郁夫	128
公衆衛生学実習	実習	2	後	1		高島 郁夫、濱岡 直裕	130
形態機能学実習Ⅰ	実習	2	前	1		斉藤 昌之	132
形態機能学実習Ⅱ	実習	2	後	1		斉藤 昌之	134
病理学	講義	2	前	2		小林 清一	136
生化学Ⅱ	講義	2	前	2		○森山 隆則	138
生化学実験	実験	2	前	1		○森山 隆則、津久井 隆行	140
病態診療学Ⅰ	講義	2	後	2		○千葉 仁志	142

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
食品科学Ⅲ	講義	2	後		2	荒川 義人、津久井 隆行	144
食品衛生学	講義	2	前	2		高島 郁夫	146
食品衛生学実験	実験	2	前	1		高島 郁夫	148
基礎栄養学実験	実験	2	前	1		松川 典子	150
応用栄養学Ⅰ	講義	2	前	2		○千葉 昌樹	152
応用栄養学Ⅱ	講義	2	後	2		○千葉 昌樹	154
栄養教育論Ⅰ	講義	2	前	2		○百々瀬 いづみ	156
栄養教育論Ⅱ	講義	2	後	2		八島 絵美	158
臨床栄養学Ⅰ	講義	2	後	2		○久保 ちづる	160
給食経営管理論Ⅱ	講義	2	前	2		○高橋 正子、○渡辺 いづみ	162
給食経営管理論実習Ⅰ	実習	2	後	1		○高橋 正子、○渡辺 いづみ	165
保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	3	後	1		片倉 洋子	167
病態診療学Ⅱ	講義	3	前	2		○千葉 仁志	168
食品科学実験Ⅱ	実験	3	前	1		荒川 義人	170
応用栄養学Ⅲ	講義	3	前	2		○千葉 昌樹	172
応用栄養学実習	実習	3	後	1		○千葉 昌樹	174
免疫と栄養	講義	3	後		1	小林 清一	176
スポーツ栄養学	講義	3	後		1	小松 信隆	177
栄養教育論Ⅲ	講義	3	前	2		○百々瀬 いづみ	178
栄養教育論実習	実習	3	後	1		○百々瀬 いづみ	180
栄養カウンセリング演習	演習	3	前		1	○岡本 智子	182
食生活論	講義	3	前		2	菅原 千鶴子、山際 睦子	184
食育指導論	講義	3	後		2	山際 睦子、菅原 千鶴子	186
臨床栄養学Ⅱ	講義	3	前	2		○久保 ちづる	188
臨床栄養学Ⅲ	講義	3	後	2		○岡本 智子	190
臨床栄養学実習Ⅰ	実習	3	前	1		○久保 ちづる	192
臨床栄養学実習Ⅱ	実習	3	後	1		○久保 ちづる	194
公衆栄養学Ⅰ	講義	3	前	2		○榎本 浩司	196
公衆栄養学Ⅱ	講義	3	後	2		○榎本 浩司	199
公衆栄養学実習Ⅰ	実習	3	後	1		○榎本 浩司	202
総合演習Ⅰ	演習	3	前	1		○高橋 正子、○渡辺 いづみ	205
英語文献講読演習	演習	3	後		1	○森山 隆則、荒川 義人、津久井 隆行	207
給食経営管理論実習Ⅱ	実習	3	前	1		○高橋 正子、○渡辺 いづみ	209
英語Ⅳ(総合)	演習	4	後		1	松尾 文子	211
国際社会論	講義	4	後		1	清水 香基	213
文学と人間	講義	4	後		1	橋本 佳菜	214
保健医療福祉行政論Ⅱ	講義	4	前		2	近藤 明代、安藤 陽子、小川 克子、片倉 洋子	215
食品機能学	講義	4	前		2	松川 典子	217
管理栄養士総合演習	演習	4	通	1		坂本 恵	219
臨床栄養学Ⅳ	講義	4	前	2		○岡本 智子	221
臨床栄養学実習Ⅲ	実習	4	前	1		○岡本 智子	223
地域栄養活動演習	演習	4	前		1	○榎本 浩司	225
国際栄養学	講義	4	後		1	山部 秀子、岡部 哲子	227
総合演習Ⅱ	演習	4	前	1		○森山 隆則、荒川 義人、坂本 恵、○久保 ちづる、 ○高橋 正子、高島 郁夫、○千葉 昌樹、○千葉 仁志、 ○岡本 智子、○百々瀬 いづみ、松川 典子、○渡辺 いづみ、 ○榎本 浩司	228
卒業研究	演習	4	通		2	○森山 隆則、荒川 義人、坂本 恵、○久保 ちづる、 ○高橋 正子、高島 郁夫、○千葉 昌樹、○千葉 仁志、 ○岡本 智子、○百々瀬 いづみ、松川 典子、○渡辺 いづみ、 ○榎本 浩司、津久井 隆行	230
給食経営管理論実習Ⅲ	実習	4	通		1※	○高橋 正子、○渡辺 いづみ	233
公衆栄養学実習Ⅱ	実習	4	通		1※	○榎本 浩司	234
臨床栄養学実習Ⅳ	実習	4	通	2		○久保 ちづる、○岡本 智子	235
臨床栄養学実習Ⅴ	実習	4	通		2	○久保 ちづる、○岡本 智子	236

※ 選択必修：どちらかの科目を必ず履修すること。他の選択科目で代替えは出来ません。

栄養教諭一種免許取得に必要な教職科目

2019年度以降入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
教職概論	講義	1	前		2	所 伸一、前田 賢次	237
教育原理	講義	1	後		1	所 伸一	239
教育制度論	講義	1	後		1	高嶋 真之	240
教育課程論	講義	2	前		1	若菜 博	241
教育方法論	講義	2	前		1	倉賀野 志郎	242
道徳教育論	講義	2	前		1	塚本 智宏	243
特別活動・総合的学習指導論	講義	2	後		1	桑原 清	244
生徒指導論	講義	2	後		1	桑原 清	247
特別支援教育概論	講義	3	後		1	小島 康次、今野邦彦	251
教育心理学	講義	3	前		2	小島 康次	253
教育相談論	講義	3	後		2	川俣 智路	255
栄養教育実習事前・事後指導	実習	4	通		1	所 伸一、〇百々瀬 いづみ	257
栄養教育実習	実習	4	通		1	所 伸一、〇百々瀬 いづみ	259
教職実践演習	演習	4	後		2	所 伸一、〇百々瀬 いづみ	260

2018年度以前入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
教職概論	講義	1	前		2	所 伸一、前田 賢次	237
教育原理	講義	1	後		1	所 伸一	239
教育制度論	講義	1	後		1	篠原 岳司	240
教育課程論	講義	2	前		1	若菜 博	241
教育方法論	講義	2	前		1	倉賀野 志郎	242
道徳教育論	講義	2	前		1	塚本 智宏	243
特別活動論	講義	2	後		1	桑原 清	246
生徒指導論	講義	2	後		2	桑原 清	249
教育心理学	講義	3	前		2	小島 康次	253
教育相談論	講義	3	後		2	川俣 智路	255
栄養教育実習事前・事後指導	実習	4	通		1	所 伸一、〇百々瀬 いづみ	257
栄養教育実習	実習	4	通		1	所 伸一、〇百々瀬 いづみ	259
教職実践演習	演習	4	後		2	所 伸一、〇百々瀬 いづみ	260

(注) 1. 科目の責任者は科目担当者の先頭記載者

2. 〇印は学科所属の専任教員で医師、管理栄養士、栄養士、臨床検査技師を経験している実務経験者

授業科目	英語Ⅳ（総合） English IV	担当教員	松尾 文子
対象年次・学期	4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	1. 英語の 4 技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。		
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。		
テキスト・参考書	[ テキスト ] 授業中に資料を配布する。 [ 参考書 ] 授業中に指示する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	70%	授業の取り組みとプレゼンテーション (30%)、及び定期試験 (70%) の結果から総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	30%		
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	本科目の学習内容、評価方法と基準、履修上の留意点等を説明する。
		事前・事後学習	事後：テキストの次週分の予習を行う。
	2	学習の主題	Dandelions: One of the Healthiest Foods on the Planet
		授業内容	1.reading 2.comprehension questions
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	3	学習の主題	Study: Young Women Lack Knowledge about Risks of Heart disease (1)
		授業内容	1.reading 2.comprehension questions
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	4	学習の主題	Study: Young Women Lack Knowledge about Risks of Heart Disease (2)
		授業内容	1.reading 2.comprehension questions
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	5	学習の主題	WHO: Too Much Planet Protein May Help You Live Longer
		授業内容	1.reading 2.comprehension questions
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	6	学習の主題	Eating More Plant Protein May Help You Live Longer
		授業内容	1.reading 2.comprehension questions
事前・事後学習		事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	Poor Sleep Behavior Tied to Many Health Issues
	授業内容	1.reading 2.comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
8	学習の主題	Study: Dogs Can Feel Their Owners' Stress, Too
	授業内容	1. reading 2. comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
9	学習の主題	How Risky Is Eating Red Meat?
	授業内容	1.reading 2.comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
10	学習の主題	Doctors Report First US Tests of Gene Editing for Cancer
	授業内容	1.reading 2.comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
11	学習の主題	Aluminum Cans or Plastic Bottles?
	授業内容	1.reading 2.comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
12	学習の主題	What's So Bad about Processed Foods?
	授業内容	1.reading 2.comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
13	学習の主題	One in Five Deaths Linked to Unhealthy Diet
	授業内容	1.reading 2.comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
14	学習の主題	Medicinal Cannabis Not Proven in Mental Health
	授業内容	1.reading 2.comprehension questions
	事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
15	学習の主題	1.presentation 2.振り返り
	授業内容	1.取り上げたトピックの中から1つ選び、自分の意見を述べる。 2.期末試験に備えて今まで学んだことを整理・確認する。
	事前・事後学習	事前：presentationの準備。これまで学んだことの疑問点を整理する。 事後：これまで学んだことの疑問点を復習する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	国際社会論 International Sociology	担当教員	清水 香基
対象年次 ・学期	4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバル化の進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。		
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人をを目指す。		
テキスト・参考書	[ テキスト ] 適宜指示をする。また、時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。 [ 参考書 ] なし		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		その他には、授業内での発表が含まれる。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物	30%	
その他	20%		
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、学生証の提示や講義室からの退出を命じる可能性がある。</li> <li>・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。</li> </ul>		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	世界の地理を知る ①
		授業内容	いくつかの方法で世界を分類する
		事前・事後学習	アジアの国々を調べる
	2	学習の主題	世界の地理を知る ②
		授業内容	日本は世界の中でどのような立場にあるのかを理解する
		事前・事後学習	多くの種類の世界地図を調べる
	3	学習の主題	世界の宗教を知る
		授業内容	世界の三大宗教について理解する
		事前・事後学習	宗教について新聞記事を調べる
	4	学習の主題	人の流れをめぐる問い：移民問題を考える ①
		授業内容	自由化か 規制か：移民問題を考える
		事前・事後学習	移民について新聞記事を調べる
	5	学習の主題	人の流れをめぐる問い：移民問題を考える ②
		授業内容	格差をめぐる問い：競争か 格差か
		事前・事後学習	格差について新聞記事を調べる
	6	学習の主題	統治をめぐる問い ①
		授業内容	多文化か ナショナルか
		事前・事後学習	統治について新聞記事を調べる
	7	学習の主題	統治をめぐる問い ②
		授業内容	グローバル化の功罪を考える
		事前・事後学習	グローバル化について新聞記事を調べる
	8	学習の主題	まとめ
		授業内容	国際人とは何か？ について自分の考えを持つ
事前・事後学習		これまでの授業の復習	

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity		担当教員	橋本 佳菜
対象年次 ・学期	4 年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1 単位
授業目的	文学というと、まず「本を読む」というイメージがあると思います。本を読むということは、その本の作者や作品中の主人公の人生を疑似体験したり、その他者(作者や作中の登場人物)の視点に立ち物事を捉えていくことで、自分とは異なる他者の考え方や価値観を知ることができたり、自分が経験したことのない状況で他者、或いは自分はどのように考えたり行動しようと思うかなどを想像できるのです。そこには時に、深い思考も伴います。他者の多様な生き方や考え方に触れることで、他者を知り、他者を認め、また自己の感性を高めることを本講義の目的とします。			
到達目標	1. 様々な文学作品に親しむ。 2. 自国の文学や、それが成立した時代背景を知り、古典文学の面白さを知る。 3. 通説や既存の資料を鵜呑みにせず、自分なりの視点で読む。			
テキスト・ 参考書	[ テキスト ] 特になし。適宜プリントを配布する。 [ 参考書 ] 講義にて適宜紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	60%	試験が60%、毎回提出してもらうレポート(出席確認を兼ねる)が40%とし評価する。	
	レポート	40%		
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回課すレポートでは、文章構成や誤字脱字、表現等に気をつけ、出来る限り推敲をすること。</li> <li>・講義の内容は若干変更する場合もある。</li> </ul>			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス、読書とは①	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の概要や評価方法等について。</li> <li>・文学とは、読書とは</li> </ul>	
		事前・事後学習	・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。	
	2	学習の主題	読書とは②	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見城徹『読書という荒野』、栗原類『発達障害の僕が輝ける場所をみつけられた理由』、さかなクン『さかなクンの一魚一会』などを読む。</li> </ul>	
		事前・事後学習	・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。	
	3	学習の主題	読書とは③	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見城徹『読書という荒野』、栗原類『発達障害の僕が輝ける場所をみつけられた理由』、さかなクン『さかなクンの一魚一会』などを読む。</li> </ul>	
		事前・事後学習	・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。	
	4	学習の主題	読書とは④	
		授業内容	・こちらで用意した本を各自読み、その後ディスカッションをする。	
		事前・事後学習	・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。	
	5	学習の主題	古典①	
		授業内容	・上代文学(古事記、万葉集など)を読む。	
		事前・事後学習	・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。	
	6	学習の主題	古典②	
		授業内容	・中古文学(菅原道真、古今和歌集、源氏物語など)を読む。	
		事前・事後学習	・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。	
	7	学習の主題	古典③	
		授業内容	・中世文学(平家物語、とはずがたりなど)を読む。	
		事前・事後学習	・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。	
	8	学習の主題	古典④	
		授業内容	・映画『源氏物語～千年の謎～』を鑑賞する。	
事前・事後学習		・講義内で実施する小レポートで講義内容を深めることとする。		

授業科目	保健医療福祉行政論Ⅱ Health & Welfare Administration Ⅱ	担当教員	近藤 明代・安藤 陽子・小川 克子・ 片倉 洋子
対象年次 ・学期	4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	1. 保健医療福祉行政の仕組みと行政施策における財政について学ぶ。 2. 主要な地域保健活動の実際と地域保健活動の進め方について学ぶ。 3. 保健医療福祉計画の考え方と策定の基本について学ぶ。 4. 保健医療福祉行政における保健師の役割、栄養士の役割を学ぶ。 5. 地域保健医療福祉計画策定について学ぶとともに、地域の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスの仕組みの理解の必要性について学ぶ。		
到達目標	1. 地域保健活動の基盤である行政・関係法規・財政の仕組みと機能について理解する。 2. 主要な地域保健活動の実際を知ることによって、地域保健活動の具体的な進め方を理解する。 3. 保健医療福祉行政と地域保健医療福祉計画の策定における保健師や栄養士の役割について理解する。		
テキスト・ 参考書	[ テキスト ] 1. 藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2019/2020」(厚生労働統計協会) 3. 医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる」(メディックメディア) [ 参考書 ] 1. 「衛生行政大要」(日本公衆衛生協会) 2. 編集・野村陽子「最新 保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) ※その他、必要に応じプリント配付		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100%	到達目標の達成状況を定期試験(筆記試験)により評価します。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	保健医療福祉行政の仕組みや関係法規等の概要については3年次に履修済であるが、本授業では更に深く学習するので、事前学習として「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努めて授業に臨むこと。 [実務経験を活かした教育内容] 実務経験者の立場から、実際の活動例を紹介しながら、理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (近藤)	学習の主題	保健医療福祉行政の概要
		授業内容	1. 厚生行政と保健医療福祉行政 2. 保健医療福祉行政の仕組み 3. 地方自治と地方分権 4. 個人情報と個人情報保護
		事前・事後学習	事前学習: 1と2については「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努め、さらに3と4については該当箇所を読み疑問点を明らかにしていく。
	2 (近藤)	学習の主題	保健医療福祉行政の財政
		授業内容	1. 国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能 ・国家財政 ・地方財政 2. 予算の機能と原則 ・財政民主主義 ・国の予算の手続き ・地方公共団体の予算の手続き
		事前・事後学習	事前学習: 財政は行政施策にとって関係法規を同じく基盤となる要素だが、難しい部分も多いので、事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにしておく。
	3 (片倉)	学習の主題	健康の概念と公衆衛生の概念
		授業内容	1. 健康の概念 ・健康の概念の変遷 ・現在の健康観 2. WHO(世界保健機関)の健康に対する考え方 ・WHOの健康に対する考え方 ・WHO憲章と日本国憲法 3. 公衆衛生の概念
		事前・事後学習	事前学習: 教科書を読み疑問点を明らかにする。
	4 (片倉)	学習の主題	世界と日本の公衆衛生活動の歴史
		授業内容	1. 世界の公衆衛生活動の歴史 2. 日本の公衆衛生活動の歴史
		事前・事後学習	事後学習: 公衆衛生活動の歴史的発展における欧米諸国と日本の相違点を整理し理解する。

回数 (担当)	項目	内容
5 (小川)	学習の主題	地域における主要な保健活動①
	授業内容	1. 地方分権と地域保健法 ・ 地域保健法の制定 ・ 地域保健法の体系 ・ 地域保健対策の推進に関する基本的な指針 2. 国民健康づくり対策 ・ 第一・第二・第三次（健康日本 21）・ 第四次対策（健康日本 21(第2次)）
	事前・事後学習	事前学習：「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学んだ内容を復習しておくこと。
6 (近藤)	学習の主題	地域における主要な保健活動②
	授業内容	3. 母子保健対策
	事前・事後学習	事後学習：母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理しておくこと。
7 (小川)	学習の主題	地域における主要な保健活動③
	授業内容	4. 成人・高齢者保健対策
	事前・事後学習	事後学習：成人・高齢者保健対策の変遷とともに、保健対策の関係法規についても整理しておくこと。
8 (安藤)	学習の主題	地域における主要な保健活動④
	授業内容	5. 精神保健対策 6. 難病対策
	事前・事後学習	事後学習：精神保健対策、難病対策の変遷と、実際の活動を関係法規と関連づけて復習をしておくこと。
9 (安藤)	学習の主題	地域における保健活動⑤
	授業内容	7. 感染症対策
	事前・事後学習	事前学習：「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学習した「感染症対策のポイント」を復習しておく。
10 (安藤)	学習の主題	地域における主要な保健活動⑥
	授業内容	8. 結核対策 9. 予防接種
	事前・事後学習	事前学習：結核対策の歴史的変遷と結核の現状と対策の実際について整理しておく。予防接種についても「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習をしておくこと。
11 (近藤)	学習の主題	地域における保健活動①
	授業内容	市町村における主要な保健活動
	事前・事後学習	事後学習：地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする。
12 (近藤)	学習の主題	地域における保健活動②
	授業内容	保健所における主要な保健活動
	事前・事後学習	事後学習：地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする。
13 (小川)	学習の主題	地域保健医療福祉計画①
	授業内容	1. 地方自治体の保健医療福祉計画① ・ 地方自治体と計画行政 ・ 地方自治体の保健医療福祉に関する分野別計画
	事前・事後学習	事後学習：地方自治体の行政計画と保健医療福祉計画との関係や課題の理解に努める。
14 (小川)	学習の主題	地域保健医療福祉計画②
	授業内容	2. 地方自治体の計画策定 3. 地方自治体の計画の推進と管理・評価
	事前・事後学習	事後学習：地域保健医療福祉計画の策定、推進・管理・評価の進め方について復習して理解するとともに、厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」（平成25年4月25日健発0419第1号）を読み、計画策定と実施等における保健師の役割について整理し理解する。
15 (近藤)	学習の主題	地域保健活動の展開
	授業内容	1. 地域保健活動の進め方 2. 地域保健活動の展開における保健師・栄養士の役割
	事前・事後学習	事後学習：地域保健活動の基本と保健師・栄養士の役割について各自のノートに整理する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	食品機能学 Food Functional Science		担当教員	松川 典子
対象年次 ・学期	4 年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位	
授業目的	近年、食品は 3 つの機能性から評価され、とくに生理機能については、健康維持・増進、疾病の予防・症状の改善を目的とした食品成分の活用、あるいは食品開発などの側面から注目されている。本講義では、生理機能に關与する食品成分について、その効果、作用機序を教授し、管理栄養士に求められる食品の生理機能に關する知識の修得、その種の情報を適切に判断するための能力を最新エビデンスに基づき身につける。			
到達目標	1. 機能性食品に対する行政上の位置づけ、法的規制、表示等を説明できる。 2. 生理機能を発揮する食品成分の種類、作用のメカニズムを説明できる。 3. 新たな開発が進む様々な機能性食品を科学的に説明できる。			
テキスト・ 参考書	[ テキスト ] 青柳康夫「食品機能学」( 建帛社 ) ※その他、配布プリント [ 参考書 ]			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	60%	宿題型のレポートと、講義最終回に実施するまとめの試験によって評価する。	
	レポート	40%		
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の 留意事項	関連科目の内容を復習した上で授業に臨むこと [実務経験を活かした教育内容] 実務経験者の立場から、食品機能学の基礎知識に加え、これまでの研究成果などを織り交ぜ、機能性食品やそのメカニズムについて理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	食品機能学	
		授業内容	食品機能学の講義概論、ガイダンス	
		事前・事後学習	食べ物の成り立ち・食品科学を復習しておくこと。シラバスを読んでおくこと。	
	2	学習の主題	機能性食品	
		授業内容	保健機能食品の制度、対象食品について	
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
	3	学習の主題	栄養表示基準	
		授業内容	食品表示法について	
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
	4	学習の主題	栄養機能食品	
		授業内容	栄養機能食品の制度、対象食品について	
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
	5	学習の主題	特定保健用食品	
		授業内容	特定保健用食品の制度、対象食品について	
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
	6	学習の主題	抗酸化性機能成分	
		授業内容	活性酸素、抗酸化メカニズム、抗酸化を有する食品について	
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
	7	学習の主題	難消化性・微生物活性機能 1	
		授業内容	食物繊維の働きについて	
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
	8	学習の主題	難消化性・微生物活性機能 2	
		授業内容	難消化性炭水化物の働きについて	
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
	9	学習の主題	脂質代謝関連機能	
		授業内容	中鎖脂肪酸・植物ステロールの機能について	
事前・事後学習		テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。		

回数 (担当)	項目	内容	
		学習の主題	授業内容
10	学習の主題	食品中の味成分	
	授業内容	味覚、味物質について	
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
11	学習の主題	食品中の香り成分	
	授業内容	嗅覚、香り成分について	
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
12	学習の主題	食品中の色素成分	
	授業内容	色素成分とそれらを含む食品について	
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
13	学習の主題	血糖値上昇阻害機能	
	授業内容	血糖値上昇抑制成分の種類と作用機構について	
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
14	学習の主題	血圧上昇阻害機能	
	授業内容	血圧上昇抑制成分の種類と作用機構について	
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。	
15	学習の主題	アレルギー起因食品・試験	
	授業内容	アレルギー起因食材、表示制度について、全体のまとめ	
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。14回目までの内容を復習しておくこと。	

授業科目	管理栄養士総合演習 Practical Seminar of Registered Dietetics		担当教員	坂本 恵
対象年次・学期	4 年次・通年		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1 単位
授業目的	専門教育科目の学修を通し、4 年間で修得してきた管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目の関連性を理解したうえで、食と健康に関する問題点や疑問点を明確にし、修得した各科目を横断的かつ総合的に判断し、問題解決する能力を身につける。また、4 年間の成果の総仕上げと位置づけ、修得した知識と技術を統合し、管理栄養士として社会で活躍できる実践力を再確認し、補足する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門基礎科目・専門科目における学修目標を習得している。</li> <li>2. 各科目を横断して、問題解決できる総合的な能力を身につけている。</li> <li>3. 卒業後の置かれた立場で、管理栄養士として、職務を実践できる基礎的な知識と技術を身につけている。</li> <li>4. 管理栄養士国家試験合格のための総合力を修得する。</li> </ol>			
テキスト・参考書	[ テキスト ] 資料を配布する。 [ 参考書 ]			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		模擬試験、補講等を実施するので必ず出席すること。 その他：取組姿勢	
	レポート			
	小テスト	70%		
	提出物			
その他	30%			
履修上の留意事項	管理栄養士の国家試験の対策として重要な科目である。必ず出席し努力を継続して実力アップをはかること。模擬試験などの成績は変動するが、点数より努力を継続することが国家試験合格の道となる。補講等は必ず受講する事が基本事項である。臨地実習や就活などで欠席する場合は必ずその旨を教員に連絡すること。進捗状況等により補講内容等の順序が変更になることがある。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	管理栄養士総合演習について	
		事前・事後学習	国家試験について事前学修、事後は自分の勉強法について計画を立てる	
	2	学習の主題	管理栄養士に必要な基礎的な知識について	
		授業内容	管理栄養士の仕事と国家試験のための知識の関連について	
		事前・事後学習	事前・事後学修に各 1 時間ほど要する	
	3	学習の主題	専門基礎科目の知識確認	
		授業内容	専門基礎科目 I	
		事前・事後学習	事前・事後学修に各 1 時間ほど要する	
	4	学習の主題	補講、専門基礎科目	
		授業内容	専門基礎科目補講（社会環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康）	
		事前・事後学習	事前・事後学修に各 1 時間ほど要する	
	5	学習の主題	専門科目の知識の確認	
		授業内容	専門科目 I	
		事前・事後学習	事前・事後学修に各 1 時間ほど要する	
	6	学習の主題	補講、専門科目	
		授業内容	専門科目補講（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論）	
		事前・事後学習	事前・事後学修に各 1 時間ほど要する	
	7	学習の主題	専門基礎科目の知識の確認	
		授業内容	専門基礎科目 II	
		事前・事後学習	事前・事後学修に各 1 時間ほど要する	
	8	学習の主題	補講、専門基礎科目	
		授業内容	専門基礎科目補講（社会環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康）	
事前・事後学習		事前・事後学修に各 1 時間ほど要する		

回数 (担当)	項目	内容
9	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目Ⅱ
	事前・事後学習	事前・事後学修に各1時間ほど要する
10	学習の主題	補講、専門科目
	授業内容	専門科目補講（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）
	事前・事後学習	事前・事後学修に各1時間ほど要する
11	学習の主題	専門基礎科目の知識の確認
	授業内容	専門基礎科目Ⅲ
	事前・事後学習	事前・事後学修に各1時間ほど要する
12	学習の主題	補講、専門基礎科目
	授業内容	専門基礎科目補講（社会環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康）
	事前・事後学習	事前・事後学修に各1時間ほど要する
13	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目Ⅲ
	事前・事後学習	事前・事後学修に各1時間ほど要する
14	学習の主題	補講、専門科目補講
	授業内容	専門科目補講（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論）
	事前・事後学習	事前・事後学修に各1時間ほど要する
15	学習の主題	補講、専門科目
	授業内容	専門基礎科目、専門科目補講（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）
	事前・事後学習	事前・事後学修に各1時間ほど要する

授業科目	臨床栄養学Ⅳ Clinical Nutrition Ⅳ	担当教員	岡本 智子
対象年次・学期	4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	内分泌疾患、電解質異常、がん、手術、周産期患者の管理、クリティカルケア、摂食機能の障害、身体・知的障害、乳幼児・小児疾患、妊産婦・授乳婦の疾患、老年症候群等の疾患等について病態別栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、実施、評価、フィードバック）の方法を修得する。栄養管理計画作成に必要な情報収集と理由、情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画の作成とその根拠、モニタリング、評価・計画の作成について学修する。さらに、チーム医療における管理栄養士の役割（実践症例の栄養評価及び栄養計画の作成・マネジメント）、他専門職との連携等について具体的に理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床栄養学Ⅱにあげた到達目標を達成したうえで、さらに今回学修した疾患について知識を積み上げて修得している。</li> <li>2. 電解質異常について説明できる。</li> <li>3. がんの化学療法と栄養管理の問題点、解決法等を考えることができる。</li> <li>4. 高齢者の栄養管理における問題点と解決法等を考えることができる。</li> <li>5. 妊娠期・周産期の栄養管理と問題点、解決等を考えることができる。</li> <li>6. クリティカルケアにおける栄養管理について説明できる。</li> <li>7. 臓器移植の栄養管理と問題点、解決法等について説明できる。</li> </ol>		
テキスト・参考書	[ テキスト ] 開講時に提示する [ 参考書 ]		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		課題レポート 50% その他：発表 50%で評価する。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物		
その他	50%		
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (1)
		授業内容	内分泌疾患 (甲状腺・副甲状腺・副腎)
		事前・事後学習	シラバス、教科書を確認して授業の準備をする。授業内容を確認し復習し、予習する。
	2	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (2)
		授業内容	電解質異常、アシドーシス・アルカローシス
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	3	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (3)
		授業内容	I型糖尿病、小児糖尿病
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	4	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (4)
		授業内容	小児の疾患における栄養管理
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	5	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (5)
		授業内容	妊産婦の疾患：妊娠高血圧、妊娠糖尿病
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	6	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (6)
		授業内容	がんの栄養管理 1：化学療法、放射線療法、悪液質
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	7	学習の主題	疾患・病態別栄養管理
		授業内容	がんの栄養管理とチーム医療
事前・事後学習		配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。	

回数 (担当)	項目	内容
8	学習の主題	症候・症状の原因 (7)
	授業内容	症候・症状の原因、鑑別法と栄養障害の評価
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
9	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (8)
	授業内容	高齢者の栄養管理 1: ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルティ、認知症、骨粗しょう症
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
10	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (9)
	授業内容	高齢者の栄養管理とチーム医療
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
11	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (10)
	授業内容	周術期における栄養管理
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
12	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (11)
	授業内容	クリティカルケア: ICU・CCU における栄養管理とチーム医療
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
13	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (12)
	授業内容	臓器移植の栄養管理 (骨髄・肝)
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
14	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (13)
	授業内容	先天性栄養素代謝異常
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
15	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (14)
	授業内容	摂食機能障害、身体・知的障害
	事前・事後学習	これまでの内容を確認し、試験の準備をする。

授業科目	臨床栄養学実習Ⅲ Clinical Nutrition Practicum III	担当教員	岡本 智子
対象年次・学期	4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1 単位
授業目的	提示された合併症を伴う複雑な困難症例について、栄養ケア計画の作成に必要な情報を整理し、栄養アセスメントを行う。栄養アセスメントの総合評価としてプロブレムリスト作成、問題点、徴候・症状を整理する。それらをふまえて栄養ケア計画を作成するとともに、モニタリング、評価・計画の作成、チーム医療における栄養管理の展開と手順について実習を通して理解する。提示された症例についての栄養ケア計画から評価、チーム医療における展開について、プレゼンテーションを行う。発表後はグループディスカッションによって、臨床現場における実践力、応用力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な疾患症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成することができる。</li> <li>2. 合併症を伴う栄養障害疾患症例を対象に栄養アセスメント、栄養ケア計画を作成することができる。</li> <li>3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画作成と献立の評価を行なうことができる。</li> <li>4. 提示症例の栄養評価、ケア計画をチーム医療の場で根拠に基づいて説明することができる。</li> <li>5. 提示症例について、口頭及びポスターなどで症例報告のプレゼンテーションができる。</li> </ol>		
テキスト・参考書	[ テキスト ] 開講時に提示する [ 参考書 ]		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		課題レポート 50% その他：発表 50%で評価する。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物		
その他	50%		
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ケーススタディ (1)
		授業内容	ケーススタディの構成 - 読み方と書き方 -
		事前・事後学習	シラバス、教科書を確認して授業の授業の準備をする
	2	学習の主題	ケーススタディ (2)
		授業内容	ケーススタディのまとめ方とプレゼンテーション
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	3	学習の主題	栄養投与方法
		授業内容	栄養投与方法の確認：濃厚流動・輸液の実際 ( シミュレーター、ポンプ、輸液セット )
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	4	学習の主題	糖尿病と栄養管理 (1)
		授業内容	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養食事指導 1
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	5	学習の主題	糖尿病と栄養管理 (2)
		授業内容	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養食事指導 2 プレゼンテーション
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	6	学習の主題	糖尿病と栄養管理 (3)
		授業内容	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養食事指導 3 評価とディスカッション
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	7	学習の主題	小児の疾患と栄養管理 (1)
		授業内容	小児の疾患における栄養管理 ①
		事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	8	学習の主題	小児の疾患と栄養管理 (2)
		授業内容	小児の疾患における栄養管理 ②プレゼンテーション
事前・事後学習		配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。	

回数 (担当)	項目	内容
9	学習の主題	小児の疾患と栄養管理 (3)
	授業内容	小児の疾患における栄養管理 ③評価とディスカッション
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
10	学習の主題	低栄養と栄養管理 (1)
	授業内容	低栄養 (PEM) : 褥瘡併発症例の栄養管理 1
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
11	学習の主題	低栄養と栄養管理 (2)
	授業内容	低栄養 (PEM) : 褥瘡併発症例の栄養管理 2 プレゼンテーション
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
12	学習の主題	低栄養と栄養管理 (3)
	授業内容	低栄養 (PEM) : 褥瘡併発症例の栄養管理 3 評価とディスカッション
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
13	学習の主題	肝硬変症と栄養管理 (1)
	授業内容	低栄養 : 肝硬変症例の栄養管理 ①
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
14	学習の主題	肝硬変症と栄養管理 (2)
	授業内容	低栄養 : 肝硬変症例の栄養管理 ②のまとめとプレゼンテーション
	事前・事後学習	配布資料を確認し、授業内容を復習する。教科書を確認し予習する。
15	学習の主題	肝硬変症と栄養管理 (3)
	授業内容	低栄養 : 肝硬変症例の栄養管理 ③評価とディスカッション
	事前・事後学習	これまでの内容を確認し、試験の準備をする。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	地域栄養活動演習 Community Nutritional Program Practicum		担当教員	梶本 浩司
対象年次・学期	4 年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1 単位
授業目的	地域栄養活動の基本は、地域に住む全ての人々の健康・生活の質向上という目的をもって、地域の活動体を組織し、健康の保持・増進に他職種と連携して取り組むことである。地域栄養活動における各種サービスやプログラムの調整、社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理の仕組みについて、実際の事例をもとに学修する。また、札幌市等の公表データをもとに、アセスメント、課題抽出、目標設定、媒体作成、模擬活動等を通して実践力を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康増進プログラムの対象・目的を理解している。</li> <li>2. 集団の食事評価についての方法を説明できる。</li> <li>3. 地域、職場等における食生活改善プログラムを作成できる。</li> <li>4. 統計的なデータをもとに、集団を評価することができる。</li> <li>5. プレゼンテーション力を身につけている。</li> </ol>			
テキスト・参考書	<p>[ テキスト ] 開講時に提示する。</p> <p>[ 参考書 ] 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 監修「食事調査マニュアル」(南山堂)</p> <p>※その他、開講時に掲示する。</p>			
評価方法・基準	評価方法		評価割合 (%)	評価基準
	試験			その他：課題、活動に取り組む姿勢 20% 活動報告発表(内容含む) 20%
	レポート		30%	
	小テスト			
	提出物		30%	
その他		40%		
履修上の留意事項	<p>実践的な学修であり学外の方々に接する機会等がある、社会人としての基本的姿勢、礼儀をもって対応することは勿論、十分に事前学修、知識の整理をしておく必要がある。活動報告等に要する授業時間の割り振りは履修者数により変動することがある。</p> <p>[実務経験を活かした教育内容] 実務経験者の立場から、地域における健康栄養マネジメント全般の内容を演習に織り交ぜながら、地域栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。</p>			
学習の主題・授業内容	1	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	地域栄養活動とは	
		事前・事後学習	事前にプリントや教科書を読んでおく	
	2	学習の主題	地域における健康・栄養活動①	
		授業内容	活動の実践と展開の方法について	
		事前・事後学習	事前配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする	
	3	学習の主題	地域における健康・栄養活動②	
		授業内容	活動の目的、地域の診断について、情報の収集について	
		事前・事後学習	事前配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする	
	4	学習の主題	参考資料等からデータを読む①	
		授業内容	札幌市等の公表資料などから必要なデータを読みとる	
		事前・事後学習	事前配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする	
	5	学習の主題	参考資料等からデータを読む②	
		授業内容	公表データを例に、データの読み方、扱い方について学ぶ	
事前・事後学習		事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする		
6	学習の主題	地域栄養活動、事業計画案作成事前準備について		
	授業内容	対象、課題、グループ等の決定について		
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする		
7	学習の主題	地域栄養活動、事業計画案作成		
	授業内容	事業計画プログラム(調査、アセスメント、評価アンケート)等の作成		
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする		

回数 (担当)	項目	内容
8	学習の主題	地域栄養活動演習①
	授業内容	事業プログラムの実践
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする
9	学習の主題	地域栄養活動演習②
	授業内容	事業プログラムの実践、結果のまとめ
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする
10	学習の主題	発表資料、配布資料作成
	授業内容	地域における活動をまとめ、報告書作成、発表資料作成
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする
11	学習の主題	活動報告①
	授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする
12	学習の主題	活動報告②
	授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする
13	学習の主題	活動報告③
	授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする
14	学習の主題	活動報告④
	授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする
15	学習の主題	まとめ
	授業内容	活動報告についての総評、地域活動の課題について
	事前・事後学習	事前に配布資料や教科書による予習、事後は授業の復習をする

授業科目	国際栄養学 International Nutrition and Dietetics		担当教員	山部 秀子・岡部 哲子
対象年次 ・学期	4 年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位	
授業目的	国際的な視点から健康、栄養、食生活、食糧問題について捉えることを目的とする。各国の食事摂取基準、食生活の指針、栄養・食生活について学修し、食事調査等の事例を通して、その国における栄養活動の状況を把握し、国民の健康課題などについて学修する。また、現在の地球環境と健康・栄養問題等の関連や解決すべき課題、諸問題への国際的な取り組み等についても学修する。			
到達目標	1. 栄養課題に対する国際社会の動きを理解する。 2. 諸外国の生活習慣病の予防および栄養不良の予防と改善を目的とした栄養対策について理解する。			
テキスト・参考書	[ テキスト ] 授業ごとに資料を配布 [ 参考書 ]			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	50%	定期試験を欠席した場合、評価の対象となりません。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	50%		
その他				
履修上の留意事項	ディスカッションなど自分の考えを表現する機会では積極的な参加をしてください。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (山部)	学習の主題	国際社会の動きと栄養改善活動の展開	
		授業内容	栄養改善活動を遂行するための国際社会の動きを歴史的背景も含めて概観する	
		事前・事後学習	WHO, UNICEF, FAO など国際機関ウェブサイトを事前に閲覧しておくこと。	
	2 (山部)	学習の主題	各国における食物ベースの食生活指針	
		授業内容	食物ベースの食生活指針の策定の背景と現在の各国の食事ガイドの理解	
		事前・事後学習	日本の食物ベースの食生活指針とその歴史について復習しておくこと	
	3 (山部)	学習の主題	国際的にみた母子保健に関する現状と課題 -MDGs と SDG s	
		授業内容	母子保健における現状の把握と SDGs 達成に向けた取り組みについて	
		事前・事後学習	ユニセフ資料を確認しておくこと	
	4 (山部)	学習の主題	国際的にみた生活習慣病に関する現状と課題 -MDGs と SDGs	
		授業内容	各国の栄養状態と生活習慣病との関連の理解と SDGs 達成に向けた取り組みの現状	
		事前・事後学習	WHO 資料を確認しておくこと	
	5 (岡部)	学習の主題	母子保健の改善にむけた栄養改善活動の事例	
		授業内容	母子保健の重点地域での栄養改善活動事例を通して地域栄養の視点の重要性の理解する	
		事前・事後学習	SUN ムーブメントについて事前に調べておくこと	
	6 (岡部)	学習の主題	各国の栄養改善対策の実際 -1	
		授業内容	事前に調査した各国の栄養改善対策について発表し、ディスカッションから理解を深める	
		事前・事後学習	担当国の栄養改善対策について調査し、発表資料を作成しておく	
	7 (岡部)	学習の主題	各国の栄養改善対策の実際 -2	
		授業内容	事前に調査した各国の栄養改善対策について発表し、ディスカッションから理解を深める	
		事前・事後学習	担当国の栄養改善対策について調査し、発表資料を作成しておく	
	8 (山部)	学習の主題	国際栄養分野における管理栄養士の役割	
		授業内容	国際栄養分野における管理栄養士等の人材の役割について考える	
事前・事後学習		管理栄養士養成課程において学んだ知識や技術について自分なりに整理しておく		

授業科目	総合演習Ⅱ Practical Seminar of Nutrition II	担当教員	森山 隆則・荒川 義人・坂本 恵・ 久保 ちづる・高橋 正子・高島 郁夫・ 千葉 昌樹・千葉 仁志・岡本 智子・ 百々瀬 いづみ・松川 典子・渡辺 いつみ・ 槌本 浩司
対象年次 ・学期	4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	卒業にあたり、各専門分野を横断して、専門分野で修得した基礎知識や技術に加え、臨地実習を通して実践的に修得した知識・技術、管理栄養士としての役割の理解をふまえて、グループワークで課題に取り組み、知識・技術を統合し、応用・活用して課題解決を図るとともに、この過程を通してコミュニケーション能力、お互いの知識・技術の交換や役割分担等、基礎的能力に加えてさらに各自が管理栄養士としての能力を高めることを目的とする。複数の教員の指導により各専門分野の知識を統合して演習形式で学修を進める。		
到達目標	管理栄養士として活動できる基礎的な能力に加えて活用・応用できる能力が身についている。		
テキスト・ 参考書	[ テキスト ] 資料を配布する。 [ 参考書 ]		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50%	
その他	50%		
履修上の 留意事項	1. 各分野の苦手、理解不足などを解消するために事前に自習して、積極的にとりくむこと。 2. 目標を共有し、メンバーが役割を分担しチームワークで成果を出すように考えることが必要です。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (森山) (百々瀬)	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	総合演習の概要
		事前・事後学習	事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
	2・3 (森山) (荒川) (坂本) (松川)	学習の主題	フードサイエンス
		授業内容	食品機能開発について 健康増進・疾病予防と食品の機能
		事前・事後学習	事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
	4・5 (高島) (槌本) (高橋) (渡辺)	学習の主題	栄養疫学
		授業内容	データの収集、管理、応用について EBM にもとづいた評価、治療について、具体的なデータの扱い方
		事前・事後学習	事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
	6~8 (百々瀬) (千葉仁) (久保) (千葉昌)	学習の主題	栄養教育
		授業内容	ライフステージと栄養教育 根拠にもとづいた栄養教育の実施 事例研究 アレルギー、肥満とやせ、食情報の提供等
		事前・事後学習	事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
	9~12 (久保) (岡本) (千葉仁) (高橋) (渡辺)	学習の主題	臨床栄養学
		授業内容	疾患・病態別栄養ケア・マネジメント 根拠にもとづいた栄養管理 事例研究 NST の実践、末期患者、高齢者、障害者等の栄養管理
事前・事後学習		事前・事後学習に各 1 時間ほど要する	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13・14 (千葉昌) (槌本) (百々瀬) (坂本)	学習の主題	地域社会における栄養活動
		授業内容	地域社会における栄養活動 根拠にもとづいた地域の評価、栄養活動 事例研究 北海道の特定の地域を取り上げ、データ収集、栄養活動案の立案等
		事前・事後学習	事前・事後学習に各1時間ほど要する
	15 (森山) (百々瀬)	学習の主題	まとめ
		授業内容	事例研究発表等の評価、指導、今後の展開
		事前・事後学習	事前・事後学習に各1時間ほど要する

授業科目	卒業研究 Graduation Study		担当教員	森山 隆則・荒川 義人・坂本 恵・ 久保 ちづる・高橋 正子・高島 郁夫・ 千葉 昌樹・千葉 仁志・岡本 智子・ 百々瀬 いづみ・松川 典子・渡辺 いつみ・ 槌本 浩司・津久井 隆行
対象年次 ・学期	4 年次・通年		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	2 単位
授業目的	管理栄養士としての専門分野において修得した知識等を総合的に活用し、研究課題を設定、研究計画作成、資料の収集、実験や資料の分析、報告書の作成、ディスカッションなどを繰り返しながら、最終的な成果を発表するとともに論文を作成する。社会で求められる専門職業人としての研究能力を修得する。			
到達目標	1. 研究テーマについて専門的に追求し、研究成果を口頭で発表するとともに論文にまとめる。 2. 卒業研究を通して、発想力、分析力、問題解決能力を身につける。 3. 実験・調査・ゼミ活動、発表を通してコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 4. 事象について、多くの人に理解されるような客観的な見解をまとめ、記述ができる力を身につける。			
テキスト・ 参考書	[ テキスト ] 資料を配布する。各自のテーマが決定してから、ゼミ等を通して参考書等を検索する。 [ 参考書 ]			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		提出物：研究テーマに関するレポートと調査計画書 10% その他：研究に対する取組姿勢 40%、口頭発表 10%、 研究論文内容 40%	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	10%		
その他	90%			
履修上の 留意事項	卒業研究は各自がテーマを決定し、予備研究、本研究等を通して科学研究の方法を学びながら、研究論文完成へつなげてゆく。ゼミ発表、実験、調査、研究発表、論文作成について各自が積極的にとりくむ必要性から、研究内容によって個別対応になることがある。各自、授業外学習時間は必須である。進捗状況により内容が前後することがある。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	オリエンテーション	
		授業内容	卒業研究とは、研究テーマの検討について	
		事前・事後学習	事前学習として研究テーマについて調べておくこと	
	2	学習の主題	研究方法について	
		授業内容	研究方法の検討、文献検索について	
		事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する	
	3	学習の主題	研究計画について	
		授業内容	文献資料収集、研究計画作成について	
		事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する	
	4	学習の主題	研究計画検討①	
		授業内容	研究テーマに沿った研究計画を作成し、検討する	
		事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する	
	5	学習の主題	研究計画検討②	
		授業内容	研究テーマに沿った研究計画を作成、検討する	
		事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する	
	6	学習の主題	研究計画書確定	
		授業内容	研究テーマに沿った研究計画書を確定する	
		事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する	
	7	学習の主題	研究活動①	
		授業内容	研究計画に基づき、テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等	
		事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する	
	8	学習の主題	研究活動②	
		授業内容	テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等	
事前・事後学習		事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する		

回数 (担当)	項目	内容
9	学習の主題	研究活動③
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
10	学習の主題	研究活動④
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
11	学習の主題	研究活動⑤
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
12	学習の主題	研究活動⑥
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
13	学習の主題	研究活動⑦
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
14	学習の主題	研究活動⑧
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
15	学習の主題	研究活動⑨
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
16	学習の主題	研究活動⑩
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等 )、ゼミ内の中間報告準備
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
17	学習の主題	研究活動⑪
	授業内容	ゼミ内、研究中間報告
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
18	学習の主題	研究活動⑫
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
19	学習の主題	研究活動⑬
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
20	学習の主題	研究活動⑭
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
21	学習の主題	研究活動⑮
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
22	学習の主題	研究活動⑯
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等から結果・考察作成 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
23	学習の主題	研究活動⑰
	授業内容	テーマに沿った研究活動 ( 調査・実験、データ整理・分析等から結果・考察作成 )
	事前・事後学習	事前・事後学習として 1 ～ 2 時間を要する
24	学習の主題	研究報告会準備①
	授業内容	発表スライドの作成
	事前・事後学習	事前・事後学習に 1 ～ 2 時間程度要する

学習の主題・  
授業内容

回数 (担当)	項目	内容
25	学習の主題	研究報告会準備②
	授業内容	発表スライドについて、ゼミ発表
	事前・事後学習	事前・事後学習に 1 ～ 2 時間程度要する
26	学習の主題	研究報告会
	授業内容	研究成果報告会
	事前・事後学習	事前・事後学習に 1 ～ 2 時間程度要する
27	学習の主題	卒業研究論文作成①
	授業内容	成果発表会等の結果をふまえ論文を作成する
	事前・事後学習	成果報告会における指摘事項の再確認をしておくこと
28	学習の主題	卒業研究論文作成②
	授業内容	卒業研究論文の作成
	事前・事後学習	作成した内容の確認、今後の予定の確認と以降の作成に 3 時間程度要する
29	学習の主題	卒業研究論文作成③
	授業内容	卒業研究論文の作成
	事前・事後学習	引き続き内容確認、作成に 3 時間程度要する
30	学習の主題	卒業研究論文作成④
	授業内容	卒業研究論文の完成

授業科目	給食経営管理論実習Ⅲ Field Practice in Nutrition and Food Service Management III	担当教員	高橋 正子・渡辺 いつみ
対象年次・学期	4 年次・通年	選択・必修	選択必修
授業形態	実習	単位数	1 単位
ねらい	給食の運営や関連の資材（設備、食材、人材、情報、資金等）を総合的に判断して、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を実践の場において養い、マーケティングの原理、給食の組織や運営管理等が実践の場でのどのように活用されているのか等を実践的に学修し、学内で学んだ知識と技術の統合を図る。また施設利用者の特徴を考慮したうえで喫食状況の把握、栄養・食事管理、食材管理、作業管理の分析、衛生管理、衛生教育、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決のための検討などについて実践の場で学修する。さらに他部署・部門、多職種との連携をはかるための方法や管理栄養士役割の学修をする。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者施設における栄養ケア・マネジメントの基礎的知識、技術について説明できる。</li> <li>2. 高齢者の栄養管理において重要な課題をあげ、その解決のため計画を立案できる。</li> <li>3. 多職種連携における管理栄養士の役割を説明できる。</li> <li>4. 高齢者の通所介護の概要について説明できる。</li> </ol>		
実習内容	実習ノートを配布する。必要に応じて資料を配布する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100%	提出物：20 点（実習の目的、自主課題、施設課題） その他：施設指導者の評価 30 点 実習ノートの内容 30 点 実習報告書実習の目的、課題の達成度について（発表含む）20 点
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	臨地実習で身につけた知識や技術をさらに定着させ、より深く管理栄養士の業務を理解するために、積極的に取り組むこと。高齢者施設の概要や食事などについて、今まで学修したことを復習、整理しておくこと。高齢者の特徴や対応等についても十分事前学習して臨むこと。 [実務経験を活かした教育内容] 実務経験者の立場から、臨地実習において学修する内容や準備について具体的に指導する。また臨地実習では実務を行っている施設職員や管理栄養士の実践的な指導により、管理栄養士としての職務や役割等について実習を通して実践的に学べることが出来る。		
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明する。  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 給食経営管理学Ⅲ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備</li> <li>2. 実習 実習施設（特別養護老人ホーム、介護福祉施設等）における実習（45 時間）</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表</li> </ol>		
実習施設	札幌市内の特別養護老人ホーム、介護老人福祉施設		

授業科目	公衆栄養学実習 II Public Health Nutrition Practicum II		担当教員	槌本 浩司
対象年次 ・学期	4 年次・通年		選択・必修	選択必修
授業形態	実習		単位数	1 単位
ねらい	保健所や保健センター等において、地域保健活動における各所の役割や機能、地域住民を対象とした栄養管理に関わる管理栄養士の業務を実践的に学修する。国の健康増進施策等が地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているのかを学修する。また、住民への栄養・食生活の改善に関する事業を実践の場で体験し、様々な栄養関連サービスを必要とする人々に気づき、地域診断の結果から地域の優先的な健康・栄養課題を明確にし、課題解決にむけたプログラムの作成・実施・評価などについて学修し、実践活動の場で今まで修得した知識および技術の統合を図る。			
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生行政を理解している。</li> <li>2. 住民の健康増進事業を通して栄養改善業務および栄養行政の概要を把握し説明できる。</li> <li>3. 地域保健活動・健康づくり対策を理解している。</li> <li>4. 地域保健活動・健康づくり対策が多職種連携により行われていることを理解している。</li> <li>5. 地域栄養計画の立案、活動の進め方、評価、健康増進事業、地区組織の育成を体得している。</li> </ol>			
実習内容	保健所または保健センターにおける実習			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	100%	実習先の評価 40%、 実習記録 20%、 報告書 ( 成果発表を含む )40%	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の 留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. 実習の準備・事後の整理は協力して行うこと。</li> <li>3. 実習保健所管内および保健センターの概要を把握しておくこと。</li> <li>4. 自身の実習課題を明確化し、到達目標を立て、効果的な実習となるよう臨むこと。</li> <li>5. 事前学習ノートの整理、報告書の作成は速やかに行い提出すること。</li> </ol> <p>[実務経験を活かした教育内容] 実務経験者の立場から、地域における健康増進施策など、公衆栄養活動の実践に必要な知識について理解しやすいように授業を行います。</p>			
実習方法	<p>実習内容についてはオリエンテーションで説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 公衆栄養学臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題 ( 自主課題または実習施設からの提示課題 ) の準備</li> <li>2. 実習 実習施設 ( 保健所、保健センター ) における実習 ( 45 時間 )</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表</li> </ol>			
施設	北海道保健所、札幌保健所・保健センター			

授業科目	臨床栄養学実習Ⅳ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅳ	担当教員	久保 ちづる・岡本 智子
対象年次 ・学期	4 年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種連携の連携を経験し、地域医療や在宅医療等についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。</li> <li>2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。</li> <li>3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。</li> <li>4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。</li> <li>5. 地域医療や在宅医療の概要について説明できる。</li> </ol>		
実習内容			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100%	提出物：実習ノート 20% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 40%
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。</li> <li>3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。</li> <li>4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。</li> </ol> <p>〔実務経験を活かした教育内容〕 実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。</p>		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項</li> <li>2. 実習 実習施設（医療施設）における実習（90 時間）</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表</li> </ol>		
実習施設	札幌市内医療施設等		

授業科目	臨床栄養学実習 V Field Practice in Clinical Nutrition V	担当教員	久保 ちづる・岡本 智子
対象年次 ・学期	4 年次・通年	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種の連携を経験し、NSTで介入する合併症を伴う複雑な症例についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。</li> <li>2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。</li> <li>3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。</li> <li>4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。</li> <li>5. 複雑な症例について栄養評価、栄養計画の作成ができる。</li> </ol>		
実習内容			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100%	提出物：実習ノート 20% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 40%
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。</li> <li>3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。</li> <li>4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。</li> </ol> <p>〔実務経験を活かした教育内容〕 実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術を課題症例のについて指導します。</p>		
実習方法	<p>患者の栄養評価、栄養計画、栄養療法の実施及び経過観察などについて、実習施設指導者の指示に従い、臨床現場での実際業務について体験し学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項</li> <li>2. 実習 実習施設（医療施設）における実習（90 時間）</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表</li> </ol>		
実習施設	札幌市内医療施設等		